



第10回「山の日」記念全国大会 岐阜 in 飛騨高山

「木の国 山の国」の恵みを活かし、未来へつなぐ

記念式典等開催結果概要

令和8年8月11日（火・祝）、岐阜県高山市において、山の価値や恩恵を改めて認識し、山との共生について考え、山への感謝を行動に移す契機とすることを目的に、節目となる第10回の記念大会を開催しました。

【記念式典】

県土の約8割を森林が占める「木の国 山の国」として、多様な動植物の命を育み、木材、水、空気といった資源で生活を支え、その美しい姿で人々の心を潤す、こうした山の持つ潜在的な力や、それを維持するための努力の大切さを、全国に発信しました。

- 日 時 令和8年8月11日（火・祝）9時30分～12時
- 会 場 高山市民文化会館大ホール
- 参加者 約800名（うち一般参加者約420名）

■トークショー

林業経営者・従事者、有識者、飛騨高山高校生徒らによるトークショーにおいて、山を中心とした地域づくり、林業の再構築、資源としての利活用などについて発信しました。

＜学習発表＞

出演者 飛騨高山高校環境科学科3年生

テーマ 「地域の森林モデルを目指して～生産性と環境性を両立した持続可能な森づくり～」

高校実習林での実証を通じ、針葉樹と広葉樹が共存する針広混合林施業や間伐によって、木材の品質・価格向上、森林環境改善による植物や昆虫の増加、保水力の増加など、森林全体の価値を総合的に高め、生産性と環境性を両立した持続可能な森づくりが可能であることを発表しました。



<トークセッション>

出演者 長野 麻子 株式会社モリアゲ代表 [コーディネーター]
井上 博成 飛騨五木ホールディングス株式会社企画研究室室長
学校法人C o I U理事長
林 千晶 株式会社飛騨の森でクマは踊る取締役会長
三宅 佳奈恵 きこりかあちゃん／林業従事者

テーマ 「森林資源の循環利用、持続可能な森林づくり」

川上から川下までそれぞれの立場で森林・林業に関わる、林業経営者・従事者、有識者、林業・森林コーディネーターによるトークセッションを実施しました。

最初に、自己紹介を兼ねて、参加した子どもたちが夢中になる森林体験やワークショップ、異業種連携やデザイン力で飛騨の広葉樹の価値を高める商品開発、森林の恵みを活かした製材・建築、水力発電など、山の魅力や価値について語っていただきました。

次に、私たちが享受している山の恵みは、先人から受け継がれたものであり、これを次世代につなぐ努力の大切さと、そのための取組－林業による山の手入れ、企業と連携した森の再生、森林を活用したメタ認知の教育や人づくり－への熱い思いが語られました。

そして、直接山に住んでいる人、関わっている人だけでなく、**みんな誰もが山に行き、山を盛り上げ、持続可能なものとしていく決意を会場の出席者とも共有し、大きな拍手でトークセッションを終了しました。**



<政策提言・総括>

出演者 江崎 禎英 岐阜県知事

森林率81%（国内第2位）の豊富な森林資源・日本一の包蔵水力を有する岐阜県から、日本が直面するエネルギー・環境問題への解決策を提言しました。

災害、木材の質の低下、鳥獣の生息域の変化など「植え過ぎの伐らなさ過ぎ」がもたらすリスクに対し、バイオコークス（木材や牛糞などから作るCO₂排出量実質ゼロの固形燃料）の活用、所有者不明山林問題の解決による林道整備・木材搬出の効率化・森林資源の活用、山の手入れによる保水力の向上や小水力発電の安定化などを国家戦略として進めることで解決に至る道筋を提示しました。



■山鐘・「山の日の歌」合唱

地元の小中学生が参加し、鐘に山への親しみや感謝のメッセージを込める山鐘や、「こだま」のようにいつも私たちの声に応えてくれる山を唄った「山はふるさと」合唱により、大会テーマである『木の国 山の国』の恵みを活かし、未来へつなぐことを誓いました。



11点鐘では、第9点鐘を田中高山市長、第10点鐘を大山香川県副知事及び大西高松市長、11点鐘を江崎岐阜県知事が行い、来年の香川大会の成功、参加者の幸せ、子ども達に託す明るく豊かな山の未来を祈念しました。



■子ども・若者が参画した大会

山鐘・「山の日の歌」合唱の他、地元の子ども・若者が、歓迎太鼓、オープニングの歓迎演奏、アテンド・進行補助等で大会を盛り上げました。



【歓迎フェスティバル】

バーチャルチェーンソーやヒノキ丸太切りなど林業体験、バイオコークス製造体験・展示車両、著名な登山家の辰野 勇（株）モンベル代表取締役会長による講演会、岐阜県が誇る自然公園の紹介、地元の姫・武将隊によるステージショーなどを通じ、山や自然の魅力を感じていただきました。

○日 時 令和8年8月11日（火・祝）10時～17時

○会 場 高山市民文化会館 及び 高山駅西交流広場

○参加者 約3,000名

